

も がみ よし あき
最上義光のかぶと

さん じゅう はち けん きん ぷく りん すじ かぶと
三十八間金覆輪筋兜



こどもシート①

■天辺の座（てへんのざ）

てっぽう
□鉄砲のたまのあと

義光は今から約400年前の慶長5年（1600）の戦い（慶長出羽合戦または長谷堂合戦）のときに敵の兵隊に鉄砲でうたれました。

■篠垂（しのだれ）

■吹返（ふきかえし）

■鉢（はち）

■鞆（しころ）

たけ
□竹にすずめのマーク

最上家の家紋のひとつ、丸竹二雀の家紋です。二羽の雀が向かい合い、片方は口を開き、もう片方は口を閉じています。

■眉庇（まびさし）

■鍬形台（くわがただい）

□最上義光がかぶっていたカブトです!!

最上家に宝物として大切に保管されていました。天下を統一した織田信長からもらったものだといわれています。山形の殿様にふさわしいりっぱなカブトです。名前は、金の筋の間が38ある筋兜なので三十八間金覆輪筋兜といいます。小さい鉄の板を重ねて丸いカブトの形にして漆を塗ってピカピカにしています。重さは3.1kgです。

このカブトには、鉄砲のたまのあとがあります。義光は戦いで敵の兵隊から鉄砲でうたれますが、このカブトをかぶっていたおかげで、危機一髪命が助かったということです。

利剣（りけん）

鍬形（くわがた）



■義光がかぶっていたときは、まんなかに利剣と、りょうわきに鍬形がついていました。